

遠く離れて 故郷を想う

FM北海道

中田 美知子



「お前さーこんな道に入れっての？」30年ぶりに会った大学時代の男友達とのゴルフ帰り、四谷の自宅まで送ってもらった時のこと。路地に入れた途端、彼が迷惑そうに素っ頓狂な声をあげた。彼の車はベンツ、親の跡目を継いで今や社長に納まっている贅沢者だ。「東京の道なんてこんなもんでしょ。狭い道お得意でしょうが」と無理に曲がらせたら器用にハンドルを操って家の前まで行ってくれた。

家の斜め前には有名な「於岩稲荷」がある。四谷怪談を演じる時は芸能人が大挙して、お参りにやってくる。昔テレビで見たことのある風景がすぐ目の前に広がっている。四角いブラウン管の中に映っている時はこんなに狭い道に面した所とは知らなかった。

東京の道は狭い、こんな道を2台の車がすれ違うことができるなんて奇跡だと思う。

久しぶりに東京へ戻ることになった時、千葉の



新宿通り～電線が埋設され、すっきりとした印象

実家から会社のある麹町まで通うつもりは端から無かった。通勤には1時間40分、しかも夜の最終便は酒臭い匂いでいっぱいになる。自分が住みたい町に住んでみようと心に決めた。

人気のある自由が丘や田園調布は駅からかなり歩くし街全体に家庭の匂いがする。

子供を置いて単身赴任なのに家族団欒の灯りが点る家の横を通り独りの家に帰るのは気が滅入る。しかも広さに比べ家賃が高い。

郊外は確かにのどかな田園風景が広がっているかもしれないが通勤地獄には我慢ならない。結局新宿区に住まいを決めたのは道産子で東京暮らしが長い、ある友人のひとことだった。

「都会には都会の暮らし方があるよ。都会は真ん中に住んだほうが絶対楽しい。それにこの新宿通りを見てよ。北海道の道みたいでしょう！」北海道のような開放感のある片側3車線の広い道路がそこにあった。

ちなみに新宿通りの電線は隠れている。地下に埋設してあるそうだ。

札幌の大通りあたりも電線を隠せばすっきり見えるだろうな、と想像しながら散歩する。

通り沿いには看板があり、「この通りは震災発

生時には車両通行止めになります」との注意書きが、この都市の危機感を表している。

終の棲家と決めている北海道を、しばらくぶりに外から見た。

良いところも、変えたいところもある。

道を歩きながら誰かに話す気持ちでこの一年の生活で気づいたことを挙げてみよう。

まず、この街の人はよくあいさつをする。意外に思うかもしれないが例えば地下鉄の切符を買おうと思って鉢合わせしたら「あら、すみませんお先にどうぞ」と声をかける。道でぶつかっても「痛い！」と言えば「申し訳ありません」と返す。それどころかぶつからないように30~40cm間隔をあけて歩いている。

先日扉の隙間にパンプスのヒールが挟まって、私の靴が脱げた。後ろにいたサラリーマンの若い男性がクールな声で「怪我、ありませんか？」と声をかけてきた。新鮮だった、北海道にはこれがない。

嘘だ！と道産子の後輩が言う。俺も東京にいたことがある。東京の人はぶつかっても謝らないばかりか、ぶつかったことすら気づかない、人間喪



於岩稲荷と狭い道

失の街だ、と反論する。

もちろん渋谷のセンター街あたりを歩いていると今でも10m歩いては痲癢起しているけれど…しかし今回私が住んだ印象は「東京は以前より社会的」だった。

大学の先輩に言わせると「東京人はさ…って言ってもこの街に住む人は殆どが他所から来た人だけだね、国際化っていうのかな、その方がかっこいいと思ってるんだよね」

もしかするとここ10数年国際化が力を発揮したのかもしれない。

ねえ、北海道人も、声かけあおうよ。

六本木ヒルズのヴァージンシネマに行ってナルホドと思った。場内マイクで「5番スクリーンで上映が始まります」なんてアナウンスが日本語で入ったあと、すぐにその女性の声で今度は英語で案内が流れた。予め録音した素材を放送しているのかと思ったら、違う。

2ヶ国語で流暢にしゃべったのは目の前にいた切符もぎりのお姉さんだった。

この街は帰国子女がいっぱいいる。今では日本語と英語が話せるくらいではフツー、というか当

たり前になっていて、その他フランス語、スペイン語、中国語、韓国語あたりがしゃべれる人も増えた。六本木のクラブで英語が話せる女性をと頼んだら、頼んだ商社マンより彼女たちのほうが遥かに英語が堪能だった、とかそんな話がゴロゴロしている。

バイリンガルがDJを担当するFMの番組を聴いていると、その分日本語がなごりにされていないか…と不満に思うこともあるのだが。

北海道人なら、英語くらいしゃべれるようにしてみたいね。外国からの観光客も多いわけだし。

石川県の粟津温泉に取材に行き「法師」という江戸時代からあるという旅館に泊めてもらった。温泉自体は開湯千数百年という能登半島の付け根にある古い温泉宿である。

緑の庭園の中に静かな佇まいの部屋がある。一般に泊れるのは新館のホテルのほうなのだそうだが、伝手がありSuite Roomも見せて頂いた。木造の建物は確かに古いけれど、汚くない。手摺も柱も棚もびかびかに磨かれている。

以前北海道の観光地で泊った旅館が、かび臭かったのを思い出した。



風力発電の風車（苫前町）

北海道人よ、古い建物の掃除は毎日しよう。100年たったらきっと差がつく。

東京暮らしは楽しいが、この街の人はお互いに心を許さない。表面以上の付き合いは殆どしない。東京暮らしは楽しいが運転はしない。高速道路は斜線を間違えると中央分離帯に激突しそうで運転するつもりがない。駐車場代金もベラボウだから車も持たない。

時折楽しい北海道のドライブを思い出す。

初夏、留萌からオロロンラインを北へ走る、海の色が濃い。白い波は兎が飛び跳ねているように見える、昔は鯨の群来で賑わったのだろう。やがて小平、苫前へと風力発電の大きな羽が回る。

夏、道東は霧多布岬を車で走る、直線距離で根室まで到着するおおよその時刻を測って大きく外れた。岬のあたりはカーブが多く、実際の距離は直線距離とかけ離れていたっけ。

秋、日高路、夕方海辺を通ったら長い釣り竿が勇壮に並んで浜につきささっていた。車を止めて降り、まだ幼かった子供たちの手を引いて海辺を歩いたら潮風で服がばたばたはためいた。北海道の四季の思い出は道路とともにある。

「北海道はどこまで行っても道路がまっすぐで、立派ね」と友人が言う。

昨今、公共事業に世間の注目が集まった時、いち早く槍玉に上がったのは北海道の道路だった。1時間走っても、誰ともすれ違うことがなかった高速道路と批判の声も高まった。

でも北海道の道は素晴らしい。走りながら見る景色はかけがえのない美しい財産だ。観光立国として北海道が咲き誇る為に、整備された道路は欠かせない。

何を捨て何を残すのか、他人任せではなく、中央が決めたことではなく、北海道人が自分で決めなければならないときが来た。

中田美知子（なかた みちこ）

Profile

出身地／東京。現FM北海道 東京支社長。